

■ 効果の見える治水事業

土砂災害に関する啓発事業

徳島県西部総合県民局 県土整備部 いしもと のぼる 石本 昇



徳島県西部総合県民局は、県西部の2市2町1,406km²を管轄し、その面積は県全体の1/3以上を占めております。また、そのほとんどが山間部であることもあり、県下の土砂災害危険箇所約1万3千箇所のうち、4割以上が当管内に集中しております。このため、当県民局管内においては、多くの住民が危険箇所内に居住し、土砂災害の危険と隣り合わせの生活を余儀なくされている状況にあります。

こういったことから、当県民局県土整備部においては「安全・安心な地域の構築」に向けた土砂災害対策の各種施策を展開しており、従来より実施している砂防施設、急傾斜地崩壊防止施設及び地すべり防止施設等のハード施設整備の更なる推進とともに、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定などのソフト対策についても積極的に実施しているところであります。



室内学習の様子



課外学習の様子

このうち、ソフト対策については、土砂災害警戒区域の指定に併せて実施する住民説明会において、危険箇所とともに、早期避難の重要性の周知に努めているところであります。

更に、従来の対策を側面支援する新たな取り組みとして、中山間地域の活動拠点となっている小学校において、児童を対象とした「防災学習支援事業」を始めております。

この取り組みは、子供たちに土砂災害の危険性や危険箇所の存在、早期避難の重要性や日ごろの備えなどを理解してもらうことにより、子供たちの土砂災害に対する危険回避能力の向上と共に、学校行事や家庭での会話を通じて防災意識の高揚を図り、地域全体の防災力の向上を目指すものであります。また、学習プログラムにハード整備の現地見学などを組み込むことで、公共事業の役割と重要性への理解も深まるものと考えております。

平成20年度においては、三好市立佐野小学校の児童5・6年生を対象に防災学習支援を行いました。児童たちが総合学習の一環として、地域の災害について調べる中で土砂災害に注目し、当県民局に学習支援



工事現場見学の様子

の要請があったことから、室内学習及び課外学習を行い、学習のお手伝いをさせていただきました。児童たちが熱心に取り組んだ成果として作成した「防災マップ」は、大人も感心するような出来映えであり、朝日新聞社、ユネスコ等が主催し、内閣府や総務省、文部科学省等が後援する「ぼうさい探検隊マップコンクール」に応募したところ、多数の応募作品の中から入賞の栄誉に輝きました。

また、佐野小学校では、文化祭や地域の防災訓練時に住民に学習成果を発表するなど、学校行事だけでなく地域活動の一環としても防災活動に活発に参加されていると聞いております。

当県民局としましては、今後とも土砂災害に関する啓発活動や施設整備を通じ、「安全・安心な地域の構築」に向けて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

■「防災意識の高揚に向けて」

徳島県三好市長 たわら てつたろう 俵 徹太郎



三好市は、平成18年3月1日に6町村が合併し、721.48平方キロメートルという四国一広大な面積を有する自治体として誕生しました。徳島県の西北端、四国の中央に位置し、約9割が北部の阿讃山脈や南部の四国山地に連なる急峻な山岳地帯であるとともに、市の中央を流れる吉野川をはじめ中小河川も多く存在する自然に恵まれた地域です。

人口は、3万2千余で、18歳以下が約13%、65歳以上が約37%と少子高齢化が進んでおり、山間部においては、いわゆる限界集落も増えつつあります。

市の大部分が山間地で、台風や大雨といった自然災害における危険箇所も非常に多く、集落も散在しています。

このような現状において、市民の安心・安全を守るためには、防災意識高揚に向けての啓発活動が重要になります。平成19年度には、土砂災害を中心とした「総合ハザードマップ」を作成し、全戸に配布し啓発を行ってきました。

自主防災組織の結成についても、地域住民の方々に積極的に呼び掛けた結果、平成19年12月には37%程度であった組織率が、平成21年6月には73%と飛躍的な伸びを見せており、防災意識の高揚を肌で感じることができそうです。

各自主防災組織では、各種防災訓練も活発に実施され、起震車による地震体験や、消火器・AED等の使用方法習得に励んでいます。

また、消防団においては、平成19年4月に三好市三野町消防団で女性分団を結成、平成21年4月には三好市井川町消防団に機能別分団が結成され、昼夜を問わず活躍中です。平成20年12月には、日本消防協会より寄贈された、県内消防団では初となる多機能型小型ポンプ付積載車が三好市池田町消防団第2分団に配備されました。この車両は、従来の消火用機材に加え、AED や油圧カッター等を備え、大規模災害時には、救急・救助活動にも当たることができるものです。



女性消防操法大会に挑戦！

このように、防災に向けた、人、組織、資機材がますます充実し、防災意識が向上していくことに日々頼もしさを感じているところであります。

今後、いづくで起きるか分からない災害に対し、対策工の整備とともに、警察や地域団体等との連携を図りながら、地域ぐるみで安心・安全なまちづくりをめざしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。



久保防災会による地震体験



佐野自主防災会による応急処置訓練